保護者・生徒の協力のもと、本年度の学教評価を行いました。その結果の概要は以下の通りです。今回の結果を踏まえ、来年度の更なる改善を目指します。

【良好であると判断できる項目】

- 「日頃から研究と修養に努め、教育上必要な研究をしている。」
- 『主体的・対話的で深い学び』の視点で授業改善を行っている。」
- 「授業をはじめ、様々な教育活動において、人権に配慮した実践をしている。」
- 「教師として、人権に配慮した言葉遣いを常に心がけている。」
- 「一人一人の教育的ニーズに応じた、指導を心がけている。」
- 「周囲に流されることなく、自ら考え正しく判断できる生徒の育成に努めている。」

【良好だが更なる改善が必要な項目】

- 「先輩や同僚の理解や協力を得ながら、協働して業務を遂行している。」
 - ・ A評価は63%であったが、C回答が11%ある。昨年度は0%であったことを考えると、改善すべき項目として検討していきたい。
- 「規則正しい食生活や生活習慣が身につくよう適宜指導している。」
 - ・ 生徒のC・D評価がやや増加している。小中一貫教育重点項目でもあるため、小学校とも連携し、保護者へも働きかけをしていきたい。
- 「生徒の自治的な能力や自主的な態度の育成に努めている。」
 - ・ 教職員のA評価が26%と低かった。学級活動（1）の授業実践を定着させることで、生徒の自治的な能力等の向上に努めたい。
- 「授業のねらいを明確にし、振り返りを行い、学習内容の確実な定着に努めている。」
 - ・ 教職員のA評価が前年度より25ポイント減少し、C評価が7%あった。「ねらい」と「振り返り」の重要性について再度確認し、定着を図りたい。

【改善が必要な項目】

- 「いじめや不登校が起きにくい環境・雰囲気をつくり、予兆を見逃さないように努めている。」
 - ・ 教職員のA評価が前年度より28ポイント減少した。問題行動が増加したことが原因と考えられる。保護者等との連携を強化し、改善を図りたい。
- 「インターネット利用上のルールやマナー、利便性や危険性の指導に努めている。」
 - ・ 教職員のA評価が前年度より22ポイント減少した。全ての学年でネットトラブルに関する問題が起きたためと考えられる。外部機関との連携を図りながら情報モラルに関する指導の徹底を図りたい。

【学校運営協議会委員からのご意見】

- 先生方の自己評価が低いことが心配である。先生方のモチベーションが下がると生徒にも影響する。地域でできることは地域にお願いするなど、先生方の負担を減らしていけば、よりよい指導や支援につながっていくと思う。
- 学校支援ボランティア等が学校に入ったり、生徒が学校の外で地域の方と交流したりする機会がほとんどないまま3年が過ぎた。学校の閉塞感を感じている。先生方も楽しんで仕事ができるような学校にしてほしいと思う。
- 情報モラル教育については、外部の指導者を招いて行ってほしい。